

NAGARA-DENSHI

**ASSEMBLY INSTRUCTIONS
FOR
MODEL TA-33
HF TRI-BAND BEAM**

1. 組立を始める前のご注意

- 梱包を開けて、部品表に従って部品を確認して下さい。
- 組立説明書をよく読んでから組立を始めて下さい。部品のまちがいや組立ミスがあるとアンテナの性能を十分発揮させることができま

せん。必ず実行して下さい。

- ケーブルは52Ωの同軸を使って下さい。
- バランを採用される場合は弊社のBL-4Kを、お勧めします。この場合MP端末のケーブル(52Ω)を準備して下さい。

2. 組立上のご注意

1. このアンテナには導電性のコンパウンド“ペナトロックス”が附属していますからパイプとパイプの接合面に入る様に細い方のパイプに塗布して、太い方のパイプにさし込んで下さい。“ペナトロックス”を塗布せずにパイプを挿入しますと、抜き差しできなくなります。
2. トラップアセンブリーはトラップの片側のみカラーコードが記されていますから必ずカ

ラーコード側がブーム側を向くように取付けます。反対側に取り付けるとSWRが高くなり正常に動作しませんから注意して下さい。

3. 全てのトラップには通気孔が空いていますから、この孔が下を向く様に取付けて下さい。
4. 作業はカラーコード別にトラップやエレメントを分類してから始めて下さい。

3. 組立前の作業 () 内の数字は部品番号です。

- バランを使用しないときは第2図のように同軸ケーブルで簡易バランをつくりま

- 給電端子(16)を同軸ケーブルにあらかじめ半田付します。同軸ケーブルは約12cmの長さを外側導体と内側導体とに分けます。

4. 組立順序 (第1図組立図参照)

(1) ラジエーターの組立 (カラーコード青)

- エレメントサポート (四角アルミ管、部品番号1) にインシュレーター(2)をM5×35ネジ(3)とロックワッシャー(4)で軽くとめます (動き代を作っておきます)。
- エレメントパイプ(6)をインシュレーター(2)の上に青のカラーコードのある側の孔が下を向くように置いて、外側のインシュレーターにM5×45ネジ(5)とロックワッシャー(4)で取付けます。
- 同軸ケーブルの外側導体を接続した端子(16)を、ロックワッシャー(4)、端子(16)、エレメント(6)の順にM5×45ネジ(5)を通して内側インシュレーターに締付ます。
- 同軸ケーブルの内側導体を接続した端子(16)も同様にロックワッシャー(4)、端子(16)、エレメント(6)の順にM5×45ネジ(5)を通し、もう一方の内側の内側インシュレーターに締付ます。
- インシュレーターとエレメントサポートとをしっかりと締付ます。
- エレメントパイプ(7)の青のカラーコード側をエレメント(6)に差込み中心周波数をCWバンドに合わせる時にはカラーコード一本線の孔をPhoneバンドに合せたい時は二本線の孔を使用し、ネジ(11)で締付ます。
- トラップアセンブリー(8)の青のカラーコード側をエレメントパイプ(7)に差込みネジ(11)で締付ます。
- エレメントパイプ(9)の青のカラーコード側をトラップアセンブリー(8)に差込みネジ(11)で締付ます。
- キャップ(10)をエレメントパイプ(9)の先端に差

込みます。

- キャップ(32)をエレメント(6)の中央に差込みふたをします。

(2) ディレクターの組立 (カラーコード黒)

- 二重パイプ(26)にエレメントパイプ(27)の黒のカラーコード側を差込みます。この時“ペナトロックス”を忘れずに塗布します。
 - <ご注意> “ペナトロックス”を塗らずにパイプを絶対に差し込まない様にして下さい。
 - エレメントパイプ(28)をエレメントパイプ(27)に差し込み、CWバンド用の時は一本線の孔を、Phoneバンド用の時には二本線の孔を使用してネジ(11)で締付ます。
 - トラップアセンブリー(29)の黒のカラーコード側をエレメントパイプ(28)にさし込みトラップの通気孔が下を向いていることを確認してネジ(11)で締付ます。
 - エレメントパイプ(30)の黒のカラーコード側をトラップアセンブリー(29)にさし込み、ネジ(11)で締付ます。
 - キャップ(10)をエレメントパイプ(30)の先端にさし込みます。
- ### (3) リフレクターの組立 (カラーコード茶)
- リフレクターの組立は(2)項のディレクターの組立と同様ですから黒カラーコードを茶のカラーコードに置き換えて行って下さい。
- ### (4) ブームの組立
- ブームスプライス(25)をブームパイプ(24)に差込み孔の位置を合せてネジ(11)で締付ます。
 - ブームパイプ(23)と(24)とを接ぎ合わせます。
 - Uボルト(13)4本をマストクランプ(22A)に通しロックワッシャー(14)とナット(15)で仮止め

します。

○ Uボルトにブームを通し、ブームの接ぎ目とマストクランプの中央とを合わせUボルトを締付ます。

○ ブームの両端にキャップ(33)を差し込みます。

(5) ラジエーターとブームの取付

○ ブームの青のカラーコードの上に組上ったラジエーターアッセンブリーのエレメントサポート(1)の中央を合せます。エレメントサポートクランプ(34)をその間に入れます。

○ エレメントサポートとエレメントサポートクランプ(34)の穴を合わせ、下からUボルト(13)2本を通しロックワッシャ(14)ナット(15)で締付ます。

○ エレメントとマストクランプとが直角になるように取付けて下さい。

(6) リフレクター及びデレクターとブームの取付
エレメントクランプ(12)の曲面とブームの曲面と

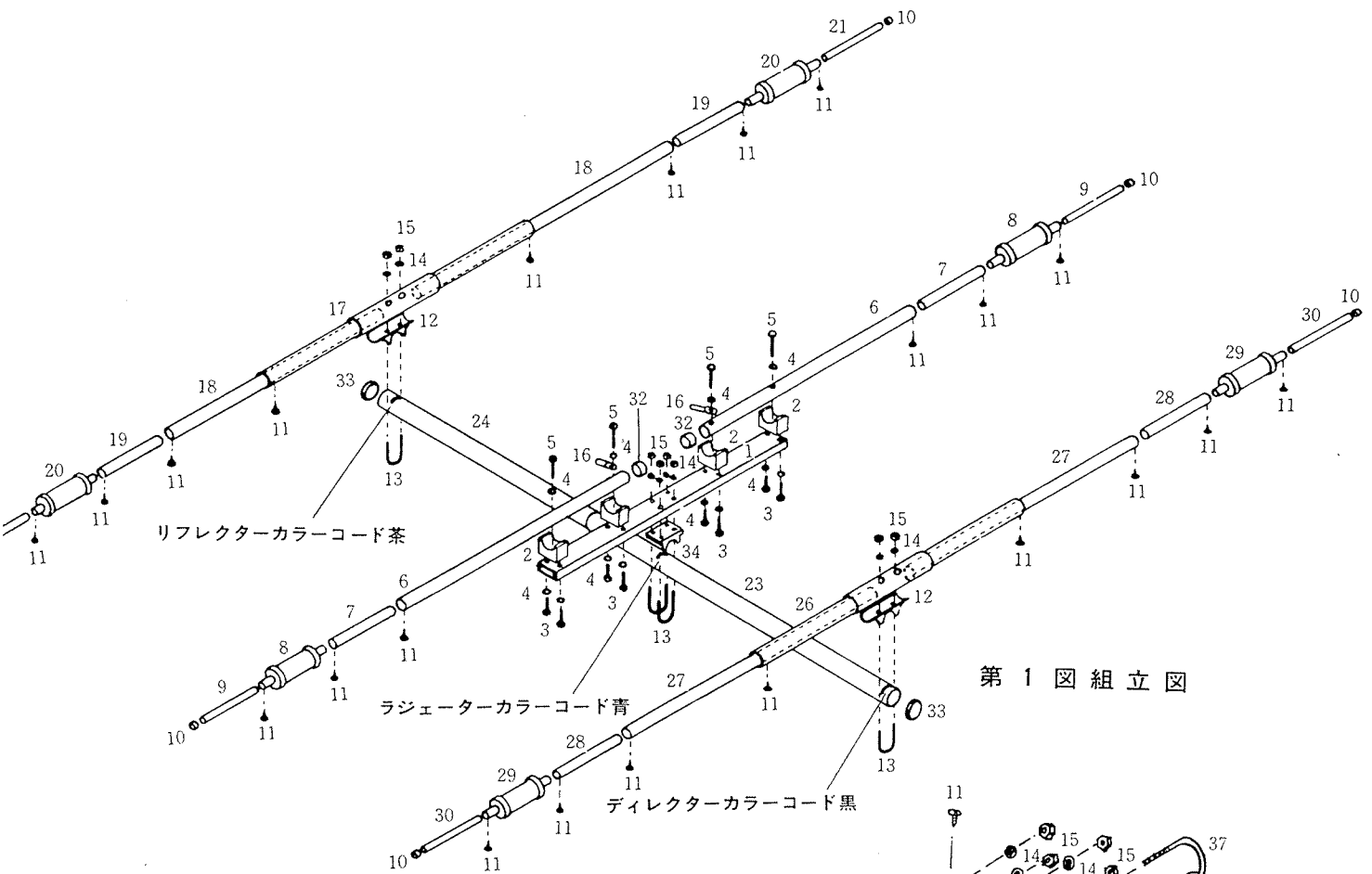
が合う向きにしてエレメントクランプ(12)をUボルト(13)とエレメント(17、26)の間に入れます。

○ Uボルト(13)にブームを差し込みそれぞれのカラーコードの位置に合せ三本のエレメントが同一平面内にある様に注意しながら締付ます。必要以上に締付けてエレメントをへこまさないように注意して下さい。

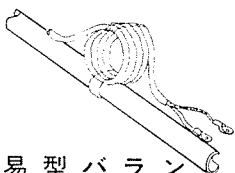
○ 51mm Uボルト(37)は外径38~51mmのマストとマストクランプを固定するために使用します。

(7) テナコートの塗布

このアンテナには耐候性のテナコートが附属していますから、アンテナの組立が終わってから筆かはけでアンテナに塗布します。テナコートがエレメントとブーム等の中に入って、これ等の間の接触を悪くしない様に注意して下さい。プラスチック部には塗布しないで下さい。

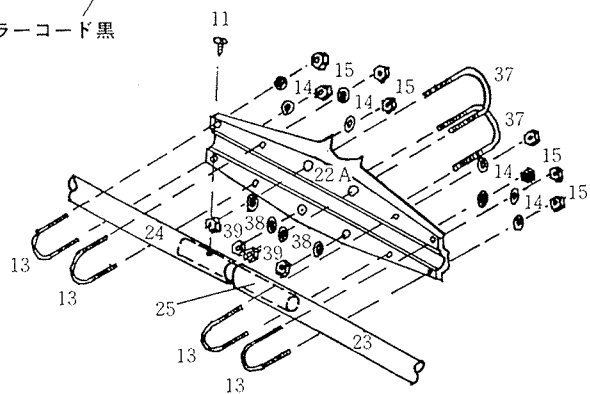


第1図組立図



第2図 簡易型バラン

バランを使用しないときは、同軸線を直径1.5センチくらいで5回巻き、給電部近くのブーム上にテープ等で固定します。外部导体はブームに接地しません。

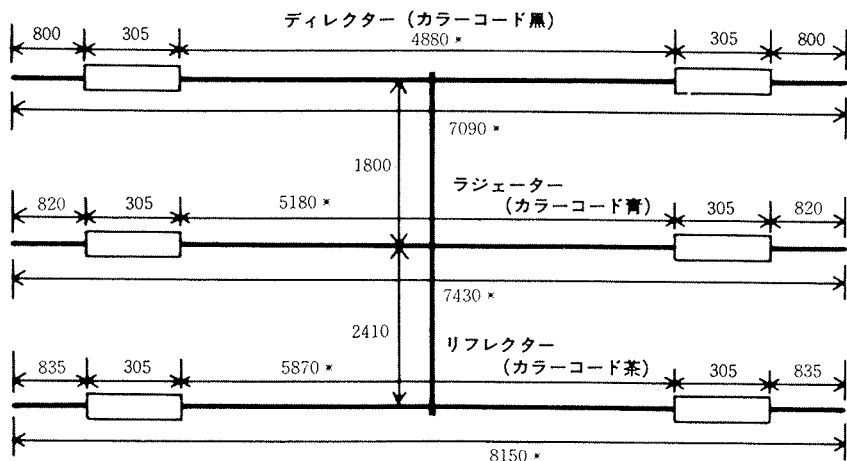


TA-33 部品表

品番	数量	品名	品番	数量	品名
1	1	エレメントサポート	22A	1	マストクランプ
2	4	インシュレーター	23	1	ブーム
3	8	M5×35ネジ	24	1	ブーム (穴アキ)
4	12	5mmロックワッシャー	25	1	ブームスプライス
5	4	M5×45ネジ	26	1	28.5×1826二重パイプ (黒)
6	2	25.4×1826パイプ (青)	27	2	25.4×1790パイプ (黒)
7	2	22.2×910パイプ (青)	28	2	22.2×910パイプ (黒)
8	2	ラジエータートラップ (青)	29	2	ディレクタートラップ (黒)
9	2	15.8×890パイプ (青)	30	2	15.8×835パイプ (黒)
10	6	15.8キャップラグ	32	2	25.4mmキャップラグ
11	23	4mmセルフタッピングスクリュー	33	2	38mmキャップラグ (ブーム用)
12	2	エレメントクランプ	34	1	エレメントサポートクランプ
13	8	38mm Uボルト	37	2	51mm Uボルト
14	16	同上用ロックワッシャー	38	4	同上用ロックワッシャー
15	16	同上用ナット	39	4	同上用ナット
16	2	給電端子	40	1	ペナトロックス
17	1	28.5×1826二重パイプ (茶)	41	1	テナコート (1/8ℓ)
18	2	25.4×1790パイプ (茶)			
19	2	22.2×1370パイプ (茶)			
20	2	リフレクタートラップ (茶)			
21	2	15.8×835パイプ (茶)			

品番31, 35, 及び36は空番号です。

中心周波数 (MHz)		
バンド	コード I (cw)	コード II (Phone)
10M	28.1	28.6
15M	21.05	21.3
20M	14.05	14.25



* CWバンドにセットしたときは 266mm長くなります。 寸法: 単位mm, 公差: ±0.15%

第3図 寸法図

住所変更 〒527-0074 滋賀県東近江市市辺町2876-2 TEL 0748-20-1650